

協議事項

1. 大腸がん検診従事者講習会及び症例検討会について

平成22年8月28日（土）に西部で開催予定。講

師等は古城部会長に後日検討して頂くこととなった。

慢性腎臓病対策について検討始まる

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器疾患等部会
鳥取県健康対策協議会生活習慣病対策専門委員会

- 日 時 平成22年2月27日（土） 午後2時～午後3時50分
- 場 所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 (20人) 岡本健対協会長、重政部会長、富長委員長
天野・大城・越智・岸本・竹田・谷口・中村・藤井・
森・吉田眞・吉田泰・吉中各委員
国保連合会：吉岡主任主事
県健康政策課：川本保健師
健対協事務局：谷口局長、岩垣係長、田中主事

【概要】

国への法定報告による平成20年度特定健診受診率は、被用者保険26.2%、市町村国保23.4%であった。

福岡県国保連合会集計ソフトによる結果では、市町村国保の平成20年度特定健診受診者におけるメタボリックシンドローム予備群は2,990人（11.2%）、メタボリックシンドローム該当者は3,830人（14.4%）であった。

慢性腎臓病（CKD）対策については、本委員会において来年度以降、委員メンバーに専門医を加えて検討していく。

であるが、特定健診そのものが充ちた健診とはいえず、追加項目等検討しながら進めていく必要があると考えている。特に被用者保険の被扶養者への勧奨は必要である。また、がん検診とのセット検診ができなくなった等により、各種がん検診の受診率についても影響が出ている。数年後には目標値も定められており、対象者の把握について、今一度ご討議いただきたい。

〈重政部会長〉

特定健診・保健指導はメタボリックシンドロームに特化した健診として開始されたため、腹囲が優先されているのが特徴であるが、国際的には腹部肥満を必須としないとの動きがある。女性の腹囲診断基準についても見直しの声もあるが、追加リスクの血糖・脂質・血圧のうち、降圧治療が特に心血管合併症を予防する上で極めて重要であ

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

資料によれば、平成20年度の受診率は低いよう

り、このあたりの働きかけが重要である。また、慢性腎疾患（CKD）についても、学会等からも真剣に取り組んでいく必要があると言われており、ご議論いただきたい。

〈富長委員長〉

平成20年度の実施率、受診率は非常に低いようであり、まずこのあたりが今後の課題と考えている。国において女性の腹囲基準は80cmとの見解もあるようで、今後判定基準が変更となる可能性もある。CKDについては本委員会で検討していくこととなったが、従来の基本健診で実施されていたクレアチニン、尿酸が除外され、その直後にこのような腎疾患対策の事業が始まり、非常に矛盾するような感じを受けるが、重要な事業であり、十分にご議論をお願いしたい。

報告事項

1. 各保険者における平成20年度特定健診・特定保健指導実施状況について（国への法定報告）：

川本健康政策課がん・生活習慣病担当保健師
特定健診・特定保健指導では、各医療保険者は実施した翌年度の11月までに国へ実施報告を行うこととなっている。対象者は、40～74歳の加入者（被保険者・被扶養者）のうち実施年度中に40～74歳となる者で、かつ当該実施年度の一年間を通じて加入している者である。なお、妊婦等一部除外者がある。

〔被用者保険〕

対象者数94,830人のうち受診者数24,884人、受診率は26.2%であった。この中で、全国健康保険協会鳥取支部（以下：協会けんぽ）がデータ不備により6,000件以上が報告から削除された影響もあり、受診率は18.4%であった。その他の主な保険者では、受診率の高い順に鳥取銀行健保組合78.3%、警察共済組合71.5%、山陰自動車健保組合70.4%などであった。医師国保組合は13.2%だった。

動機付け支援と積極的支援を合わせた保健指導合計は、対象者数2,203人のうち、利用者数138人、終了者数117人で、実施率は5.31%であった。最も高かったのは鳥取銀行健保組合で実施率37.0%であった。ただし、協会けんぽ分は現時点では不明であり計上はしていない。

委員から、協会けんぽなど母数が多い保険者において、被扶養者が受診しやすい体制を整えて欲しいとの意見があり、協会けんぽは今年度、被扶養者の受診券送付は申請方式であったが、22年度からは被保険者本人の会社を通じて被扶養者へ発送する予定とのことだった。また、被扶養者の数は、今後も別枠の報告として挙がってこないのかとの質問について、法定報告では被保険者本人と被扶養者の数を分けて報告はしないため、保険者によっては法定報告以外のデータの提出は難しいとの回答もあるようである。

〔市町村国保〕

対象者数103,221人のうち受診者数24,137人、受診率は23.4%であった。従来の基本健診より受診率は低かった。最も高かったのは江府町で49.3%、低かったのは倉吉市の14.7%であった。動機付け支援と積極的支援を合わせた保健指導合計は、対象者数3,454人のうち、利用者数830人、終了者数520人で、実施率は15.1%と被用者保険より10%近く高かった。

被用者保険と市町村国保を合わせた5歳ごとの年齢階級別及び男女別結果では、各年代とも20%以上の受診率があった。内臓脂肪症候群の該当割合は、男性19.9%、女性7.0%、予備群該当者は、男性15.8%、女性5.8%であった。また、服薬状況では、高血圧の割合が高い傾向が見られた。

協議の中で、以下の意見があった。

- ・鳥取銀行など70%以上の高い受診率の保険者の取組みを参考に伺ってはどうか。
- ・次年度からの協会けんぽのように、対象者個人へダイレクトに受診券を送付することは受診率向上には有効と思われる。

- ・前年度保健指導を受けた者も翌年は健診の対象者となるので、今後、継続して受診する人は減ってくるのでは。
- ・市町村の中で保健指導実施率が高いところは何か取り組みされているのか。湯梨浜町などでは受診者に対して結果説明会を開催しており、この説明会において、初回面接を行っているとなっている。そのために利用率が60%代と高いようである。

2. 市町村国保における特定健診・特定保健指導実績状況について（福岡県国保連合会集計ソフトによる集計結果）

前回の委員会において、市町村国保のみ、了承を得た上で福岡県国保連合会集計ソフトによる集計様式を使用し報告する件が了承された。このソフトでは、有所見状況が一覧表で閲覧することができ、判定基準に基づき健診の異常者数が計上される内容になっている。※福岡ソフトは除外対象者（年度途中での加入・脱退等）等を含んだ数の報告となっているので、国への法定報告より約2,500人受診者が多い。

健診有所見者状況は、受診者数26,669人のうち、7,771人（29.1%）に腹囲所見が見られた。男女別では、男性は4,595人（44.7%）、女性は3,176人（19.4%）に腹囲所見が見られた。また、男女とも70～74歳において割合が高かった。

市町村別では、腹囲所見割合が高かったのは三朝町33.5%、日野町33.2%などであり、逆に低かったのは琴浦町19.4%、江府町21.3%であった。中性脂肪が高かったのは岩美町34.7%、低かったのは江府町10.3%であった。収縮期血圧は若桜町が63.6%と最も高く、琴浦町が最も低く40.6%であった。

メタボリックシンドロームの状況は、予備群は2,990人（11.2%）で、そのうち血糖所見157人（2.3%）、血圧所見2,194人（32.2%）、脂質所見639人（9.4%）であった。また、メタボリックシンドローム該当者は3,830人（14.4%）で、そのう

ち血糖＋血圧所見673人（9.9%）、血糖＋脂質所見217人（3.2%）、血圧＋脂質所見1,973人（28.9%）、3項目全ては967人（14.2%）であった。男女別では、男性17.1%、女性7.5%が予備群で、メタボリックシンドローム該当者は男性22.2%、女性9.4%であった。女性は男性より予備群に占める血圧所見が高い傾向が見られた。

協議の中で、委員より以下の意見等があった。

- ・メタボリックシンドローム発症率が市町村により差があり、従来からの市町村での取り組みが著明に現れた結果ではないか。
- ・血糖、血圧、脂質全てに該当しないと心電図検査が実施できない健診は問題である。健診医の判断で実施できるよう、本委員会から保険者協議会などへ働きかけていくことが必要ではないか。
- ・なお、米子市においては、平成21年度までは追加検診として全対象者に実施していた貧血・心電図検査が、来年度より予算の関係上、実施しなくなる見込みである。

協議事項

1. 慢性腎臓病（CKD）特別対策事業について

国において、CKDの正しい知識の普及と人材育成等を目的に、平成21年度に「慢性腎臓病（CKD）特別対策事業実施要綱」が策定された。これを受け、本県においても平成22年度から事業実施を予定している。

実施内容としては、①本委員会において特定健診データの評価を行い、CKD対策を検討する、②県民向けへ「腎臓病対策セミナー」を開催し、広く県民にCKDについて周知を行う、③人材育成のためのかかりつけ医等を対象とした研修会の実施、である。

委員から、これらについて、本委員会で検討していくために、腎臓病学会の専門医を委員に加えてはどうかとの意見があり、平成22年4月からの健対協各種専門委員の任期に合わせて、委員構成を検討することとなった。

また、保険者協議会などに対して、検査項目にクレアチニンを実施していただくよう、引き続き要望して欲しいとの意見があった。

2. その他

今年度の特定健診従事者講習会について、本来

は第1回目（夏）委員会後に開催する予定であったが都合により実施できず、第2回目委員会後に開催することとなった。次年度の開催時期について検討した結果、例年通り1回目の委員会後に実施することとなり、時期は平成22年7～8月頃を予定している。

特定健診・特定保健指導従事者講習会

日 時 平成22年2月27日（土）

午後4時～午後5時

場 所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町

出席者 35名

（医師：21名、看護師・保健師：9名、

検査技師・その他：5名）

吉中正人先生の司会により進行。

講 演

重政千秋鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器疾患等部会長の座長により、鳥取大学医学部統合内科医学講座病態情報内科学講師 谷口晋一先生による「特定健診・特定保健指導の実施状況と今後の課題について」の講演が行われた。

鳥取医学雑誌への投稿論文募集と医学会演題募集について

「鳥取医学雑誌」は、鳥取県医師会が発行する「学術雑誌」で年4回（3月・6月・9月・12月）発行しています。締切日は設けておりません。「受理」となった論文は、発行月に最も近い医学雑誌へ掲載いたします。投稿にあたっては、鳥取医学雑誌に掲載している「投稿規定」をご覧ください。優秀な論文に対しては、定例総会席上「鳥取医学賞」が贈られます。

また、「興味ある症例」（2頁）への投稿も併せて募集致します。投稿要領は編集委員会へご請求下さい。

会員各位の日常診療の参考となる論文のご投稿をお待ちしております。